

「【500人に聞く】第17回  
“現代ラジオ事情”に関する調査」ダイジェスト  
“広告の減少が続くラジオだが親密度はNO.1”  
月刊『アイ・エム・プレス』 Vol.159(8月号)誌上で公開!

株式会社アイ・エム・プレスは、月刊『アイ・エム・プレス』に連載中の「500人に聞く」シリーズ(調査主体:(株)アイ・エム・プレス 調査協力:(株)マーシュ)の第17回として現代ラジオ事情について調査を行いました。本リリースでは、同調査結果のダイジェストをお送りします。

なお本調査は、2009年7月25日に弊社が発行いたしました、月刊『アイ・エム・プレス』Vol.159(8月号)に結果全文を掲載しております。月刊『アイ・エム・プレス』Vol.159の詳細は、  
<http://www.im-press.jp/magazine/> から。

#### < 調査の概要 >

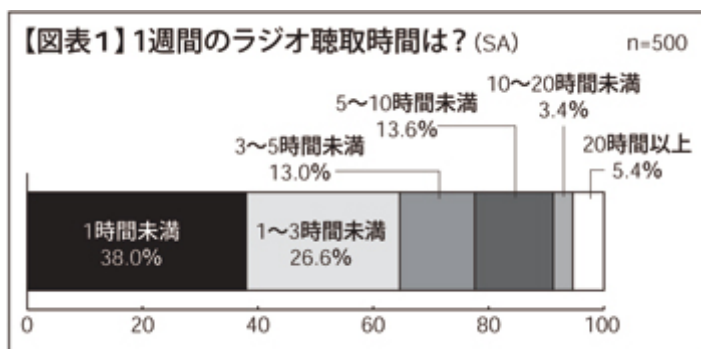
調査期間: 2009年6月18日~22日  
調査対象: 全国における15~69歳の男女  
調査方法: インターネットリサーチ((株)マーシュ調べ)  
サンプル数: 500

#### < 調査結果紹介 >

ラジオは、現在でも4大メディアに数えられてはいるが、広告収入は2004年にインターネットに抜かれ、その後も減り続けている。そのあおりを受けたかたちで、数十年も続いた長寿番組の終了が相次ぎ、マスコミをにぎわしたのは今春のこと。しかし、ビジネス的には厳しくても、ラジオにはほかの媒体にはない魅力があり、長期にわたって聴き続けている生活者がいるのも事実だ。今回は、現代の生活者がラジオをどうみて(聴いて?)いるのか、ラジオの魅力はどこにあるのか、について調査を行った。

なお、本調査に先立つ予備調査で、現在ラジオを聴いているかを調べたところ、31.8%が「聴いていない」と回答。本調査は日常的にラジオを聴いている7割弱の生活者を対象に行った。

#### プライベート・スペースの中、ひとりで聴くのが大多数



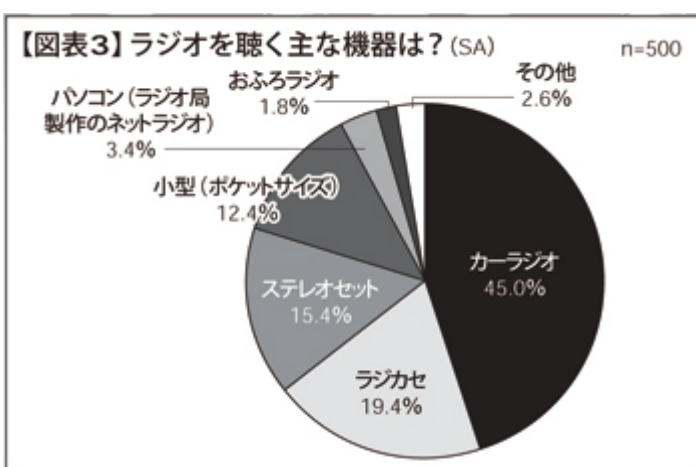
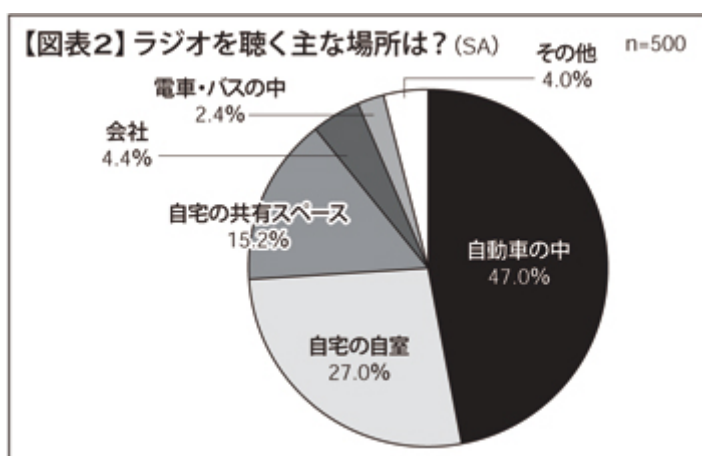
まず、1週間におけるラジオ聴取時間を尋ねた結果が図表1である。最も多かったのが「1時間未満」の38.0%であった。「1~3時間未満」が26.6%、「3~5時間未満」が13.0%で続き、この上位3つで8割近い。これはテレビ視聴について調査した、本誌156号のものとは比べてかなり少ない数値となった。テレビのトップは「10~20時間」(32.0%)だったので、トップだけを比較しても10~20倍以上の開きがある。文字通り

“けたが違う”のである。ここでも、ラジオの苦戦ぶりが伺える。

ラジオを聴く時間帯については特に偏りはみられず、9～24時までの時間帯は36.2～43.6%であった。一昔前、一世を風靡した深夜ラジオ（24時以降）は、現在でも10.6%の聴取者がいる。

次にラジオを聴く場所を尋ねたところ、「自動車の中」が断トツの47.0%、以下「自宅の自室」が27.0%で続き、この2つでほぼ全体の3/4となる。「自動車の中」は、通勤時や営業・配送などの業務中と考えられるので、ラジオはひとりで聴くのが一般的と言えそうだ。3番目の「自宅の共有スペース」（15.2%）を含めると9割近くに達することから、公の場所ではほとんど聴かれていないことが明らかとなった（図表2）。

続いて、どんな機器でラジオを聴いているのかを尋ねた結果が図表3である。1位は「カーラジオ」の45.0%だが、これは前問の結果からも当然のところ。2位の「ラジカセ」（19.4%）、3位の「ステレオセット」（15.4%）まで含めると約8割に達するが、いずれもラジオ専用機ではない。このようにラジオを聴くためだけの機器を使っている人は少数派ではあるが、それだけラジオの受信装置は、どんな機器にも簡単に組み込むことができる、ということも言えよう。



同調査のさらなる情報は以下のサイトへ！

500人に聞く・第1回～第16回バックナンバーも満載！

「アイ・エム・プレス」Webサイトはこちら！

<http://www.im-press.jp/index.html>

インターネットが企業と生活者、そして企業と企業をつなぐ時代。従来からの競合の概念は大きく変化し、顧客主導型経営の重要性が叫ばれています。月刊『アイ・エム・プレス』では、このような“変革の時代”に勝ち残るための顧客づくりのヒントを、年間定期購読システムによりお届けしております。

<株式会社アイ・エム・プレス>

代表取締役社長：西村道子 / 設立：1989年10月19日

業務内容：出版、セミナー企画、調査、編集

〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-6 聖台ビル5F

TEL：03-3815-8991 / FAX：03-3815-8957 / URL：<http://www.im-press.jp/>

<本リリースに関する問い合わせ先>

(株)アイ・エム・プレス 編集部/販売促進 までお気軽にお問い合わせください。

TEL/FAX/URL：同上